



# 伸びよう阿曽っ子



11月品格目標：勇氣

## 言葉が変われば心も行動も変わる

10月27日(月)の児童朝礼で、次のような話をしました。

11月の品格目標である「勇氣」。勇氣ある行動をするためには、強い気持ちが必要です。じゃあ、強い気持ちをもつにはどうすればいいのでしょうか。実は誰でも日頃からあることに気をつけると強い気持ちをもつことができます。みんなは「口癖」って知ってますか？ 自分でも気付かずによく使っている言葉のことです。

実はこの口癖には秘密があります。それは、「自分の口癖が自分をつくっている」ということです。「やってみよう」が口癖のあなたは、難しいパズルができるようになるかもしれないし、そのことをきっかけに自信がわいて他のことにもチャレンジできるようになるかもしれません。でも「無理」が口癖のあなたは、本当はパズルができたかもしれないのにできないまま。さらに自信がもてるようになることがないから、チャレンジすることが怖くなるかもしれません。

よい口癖には「だいじょうぶ」「いいね」「なんとかなる」「おもしろそう」「がんばった」「やってみよう」「よかった」があり、あなたの心を強くしてあなたに勇氣をくれます。それに対してよくない口癖には「だって」「べつに」「めんどくさい」「つかれた」「むり」「どうせ」「なんでもいい」があります。あなたの心を弱くしてあなたの成長をじゃまするから、使わないようにしましょう。

ただし、「だって」「つかれた」と1回言っただけで、あなたの心が弱くなることはありません。だれにでも「だって」と言いたくなる時もあるし、「疲れた」って口に出すことで、気持ちが楽になることもあります。だいじなのは「くせ」にしないことです。

さて、お子さんが「だって」「つかれた」「めんどくさい」と言っているのを聞いて、気になることはありませんか。「そんなこと言わないの」と注意することもあるでしょう。なぜ気になるのか、なぜ注意したくなるのか。それは「だって」と言い訳して、「つかれた」と愚痴を言って「めんどくさい」とやるべきことを後回しにする人になってしまうのではないかと、という心配が心の中のどこかにあるからではないでしょうか。

昔から伝わる「言霊」という言葉があるように、言葉の力は絶大で、普段使っている言葉が、その人の心や行動をつくり、その人自身をかたちづくっていきます。言葉が変われば、心も行動も変わるため、「よい口癖」を使うことが大切です。

子ども達が「口癖」について学び、ポジティブな思考をできるようになり、健康な心をもってほしいと思うと同時に私たち大人も子ども達のお手本となれるよう気を付けたいと思います。

Words have power



## 資源回収お世話になりました

10月18日(土)は、早朝より資源ごみの回収にご協力いただきまして誠にありがとうございました。皆様からいただいた資源ごみに加え、学校で不要になった金属製の机等も引き取っていただくことができました。今回の資源回収で得た収益は、子ども達の学習環境整備のために有意義に使わせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

<※前回回収したごみは7,950kgで、98,810円の収益でした。>



## あぞっ子タイムで楽しみました

20日(月)に、1～6年生のグループであるたてわり班で遊ぶ「あぞっ子タイム」がありました。事前に6年生が計画・準備をしてくれ、それぞれの班で教室や体育館を使って遊びました。

異学年集団での活動を通じて、「お互いを認め合い相手を思いやる心を育てること」、「高学年の児童がリーダーシップを発揮し下学年の児童と関わることで、自己有用感を高めること」等を目的としています。社会性やコミュニケーション能力を身に付けることが課題となっていますが、「人(友達)と関わりたい」と思う気持ちは、自らの体験によってのみ獲得されるものです。様々な人と一緒に活動したり遊んだりすることを通して、「人と関わることって楽しい」「人と関わることって苦痛なことではない」と感じるころから「人との関わり」は始まり、「社会性の基礎」が養われていくことでしょう。

